

ロタウイルスワクチンを受けられる方へ

病気について

ロタウイルスによる胃腸炎は、急激な嘔吐と水様性の下痢便を頻回に排泄し、発熱が7割～8割程度みられます。ロタウイルス感染症により世界では5歳未満の小児が年間約50万人死亡しているとされ、その80%以上が発展途上国で発生しています。先進国では死亡例は少ないですが、嘔吐・下痢に伴う脱水やけいれん、腎不全、脳症などの合併のため入院治療に至るケースがあります。重症急性胃腸炎で入院する原因としてロタウイルスが最も多いといわれています。

ロタウイルスワクチンについて

ヒトロタウイルスを弱毒化した1価弱毒生ワクチン【ロタリックス】とウシーヒトロタウイルスのリアソータント5価生ワクチン【ロタテック】があります。いずれのワクチンも、ロタウイルスに対する予防効果が示唆されています。他のウイルスに起因する胃腸炎を予防することはできません。

先進国・途上国を問わずワクチンを導入した国・地域では、ロタウイルス感染症は劇的に減少しています。さらに、直接効果だけでなく集団免疫効果も認められています。腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害（メッケル憩室等）や腸重積症の既往のある乳児、重症複合型免疫不全症（SCID）を有する乳児は、接種を受けることができません。

予防接種の受け方

次のような方法で経口投与し、免疫をつくってください。

ワクチン名	ロタリックス（1価）	ロタテック（5価）
接種時期	出生6週0日後から24週0日後	出生6週0日後から32週0日後
※標準的な接種開始時期	※どちらのワクチンも、初回接種は生後2か月から出生14週6日後までに接種します	
接種回数	2回接種 (27日以上の間隔をあける)	3回接種 (27日以上の間隔をあける)

◆2回目以降の接種に当たっては、原則、同一種類のワクチンで接種を完了してください

接種後、特に初回接種の1週間以内に、腸重積症の症状（ぐったりして元気がない、繰り返し起きる嘔吐、繰り返す不機嫌、血便）が1つでもみられた場合は、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。

※腸重積症：腸の一部が隣接する腸管にはまり込み、腸が閉塞した状態。ロタウイルスワクチンの接種に関わらず、乳幼児が患することのある疾患です。0歳児は月齢が進むとかかりやすくなりますので、できるだけ早めに規定の回数を接種し完了させてください。

予防接種後の注意と副反応について

- ① 接種後に吐き出した場合でも、再度の接種は必要ありません。少量でも飲み込んでいれば一定の効果があることや、ロタウイルスワクチンは複数回接種することとなっており、一連の接種で効果が期待できるとされています。
- ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
- ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありません。
- ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ⑤ 接種後（特に1～2週間）は腸重積症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種直後から数日後の副反応としては下痢、嘔吐、胃腸炎、咳・鼻みずなど、又全身反応としては不機嫌、発熱などがありますが、通常は一過性で数日以内に軽快します。稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー症状（ショック症状、発疹、舌の腫脹、呼吸困難など）が報告されています。

接種後3週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。

接種後、気になる症状があるときは、接種を受けた医師にご相談ください。

また、下記にもご連絡ください。

（予防接種健康被害救済制度について）

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】
四條畷市立保健センター

☎072（874）9500

☎072（877）1231